

## 第 2 回 桐間地区事業所等津波避難対策協議会

日時：平成 25 年 2 月 21 日（木） 14：00～

場所：桐間南 1 番地 ぐる～めすさき

### 1. 挨拶及び議題説明

#### 地震・防災課

昨年 11 月の会で協議した課題等について、各事業所単位での避難場所の選定案や避難誘導、方法などの啓発をどうしていくか協議頂きたい。

また、須崎市が行っている避難総合対策専門委員会で整理した桐間地区の避難対策の方向性も説明したい。

現在、国土交通省が進めている須崎道路（高速）への避難階段について、本年 3 月末完成に向けて工事をはじめた。ただし、この階段の目的は須崎道路からの避難階段という位置付けであり、津波避難での使用については明確にされていない。大規模な地震が発生し、津波からの緊急避難が必要となった場合の使用は容認するという事で事業所の皆さまにはご理解いただきたい。

### 2. 各事業所単位の避難場所の選定

#### 地震・防災課 資料説明

避難場所の選定について、最も近い高台へ避難するという事がベストな避難場所になることは理解されていると思う。桐間地区においては、昼間人口が非常に多いということで、1 箇所の避難場所に全ての事業所が避難すると収容オーバーしてしまう。避難場所を分散させる必要があるという意見を前回の会議で伺っている。そこで、一覧表にあるエリアごとに、それぞれ近い避難場所をこちらの方で設定をさせて頂いたところである。エリアとしては、桐間の東側、中央、西側、南側の 4 エリアで分けらせてもらった。その中で、どういう経路を利用して避難場所に向かえば良いのかなど、避難経路、避難場所を選定しております。

まず、東側は労働金庫、タイヤガーデン、こうち生協、マルナカ、ネクサス平和商事の 5 事業所について、避難者数の問題もあるので、まず想定を上 4 つの事業所（労働金庫、タイヤガーデン、こうち生協、マルナカ）で 400 人と考え、エム・セテックの方へそれぞれの避難経路を使って逃げて頂く。これについては、国道の方へは出ない（横断しない）ように考えた中で、経路を選んでいきます。

マルナカは国道沿いの歩道を通して、県道で線路と高速道路を越えて行くよ

うになります。そういったルートで逃げて頂くことを考えています。特に、電器店も新しくできますので、若干想定人数を少なくした400人という形でエム・セテックに避難することを選定しました。

平和商事については、桐間地区の中間に位置しますので、高速道路経由と書いておりますが、どうしても国道56号線を渡ってという事になるので、国道経由の城山とエム・セテック方面に分かれて頂くようになります。(別途協議が必要と考えている)ただし、城山方面に1700人の人口が避難するとなったら、避難場所のキャパが厳しいということがあります。そこについては、トンネルの上付近も含めて土地の所有者が国交省なので、市からも整備をお願いしていきたい。なお、桐間から避難する人口は2000人程度考えており、市の計算でいきますと緊急避難場所1人当たりにつき1㎡と計算しております。概ね2000㎡の土地を待機場所として要望していくというような形になります。

ただし、現時点で急な整備も進まないということで、第2候補の避難場所として中央エリアに当たるドコモ、サークルK、ドラックかもめは県道を越えて、多ノ郷平和公園へ向かうのが一番近いのではないかと考えています。また、どうしても時間がない場合は、現在、指定避難場所ではないが、須崎プリンスホテルやロマーナ(アパート)といった高い建物も経路沿いにあるので、そういったものも利用しながら、平和公園方面へ避難していただくということも手段ではないかと思う。

また、西側エリアの日商プロパン、ルミエールくろしお、コーナンについては、西に抜ける道があり地図で見て頂くとわかるとおり、線路を渡って北へ向かえばマルニの前に出る道があります。そこを通過して須崎工業又は、自動車学校へという選択できる。ただし、須崎工業は大間地区の住民が多く逃げるということもあり、距離は少し伸びてしまうのですが、自動車学校方面に逃げる選択ができます。ヤマダ電機、ディーボも含めて、県道の陸橋下を通り、北へ向かうルートで平和公園に逃げることもできます。ただし、避難距離が伸びるといことで訓練などを通じてどれくらいの避難時間が掛かるか確認をして頂きたい。

南側の前川種苗、ベテルホーム、ダイナムについては、基本的には国道を通過して逃げるのが前提となるが、高速道路に上がる階段も視野に入れ、城山方面に向かってもらうということを考えている。

市の避難方法の考え方として徒歩避難を基本にしており、その中で、避難困難者が多数入所しています施設については、最小限の車両の活用というのも考え、避難の基本方針を須崎市防災会議に諮る準備をしております。現時点で車両避難は福祉施設のみと考えており、ベテルホームについては、歩ける方は国道や高速道路への階段を使って徒歩で避難し、歩けない方は車両で吾桑方面へ

逃げて頂くという避難方法を検討していただきたい。なお、市の方でもベテルホーム以外の施設も市内に多くあるので、来年度に福祉施設の避難計画のひな形を作成したいと考えている。

各事業所別の避難場所の説明については以上。

● 質疑・意見等

Q. 高速道路を通過して城山へ上がる道というものはあるのか。

A. フェンス等乗り越える必要があるが、高速道路と国道の間に城山へ上がる道がある。そこから上がっていただき、さらに上へ避難するようになる。

Q. 城山へ上がる避難道に草が生い茂っている。草刈りなどの道の管理を市の方でやってもらえるのか。

A. 土地の所有者が国土交通省になっている。ある一定、避難階段ができれば、管理の方については市の方から国土交通省に話してみる。

なお、草刈り等について、どこが行うか決めていないが、基本的には国土交通省にお願いするようになるのではないかと思います。

Q. 国土交通省がいつも掃除をしてくれるわけではない。気づいた時に業者が掃除をして、常に逃げるように構えておかなければならないのではないのか。

A. 桐間地区以外でも、日頃から自分たちで逃げる道の手入れ等を地域でやって頂きたいというお願いもしている。行政支援は限界があるので、桐間地区の事業所の皆さんで活動して頂くことも一つの手段と考えますし、市の方からは国へ働きかけていきたい。

Q. 避難場所は概ね確定した段階だと思うので、避難マップをそれぞれの事業所に貼れるように市の方で準備してもらえないか。

また、来店された客にどういう経路で逃げるのかが分かるようにしてもらいたい。具体的には同じようなデザインで、各店舗が必要な部分（空欄）を補足するような形式にしておけば認識を高めてもらえるのではないか。

A. 前回の会議でも同様の意見を頂いている。避難場所をそれぞれ事業所ごとに検討頂き、最終的な確認ができた段階でマップやチラシ等を作成し、店舗に置いて頂くことを考えている。

3. 避難誘導・啓発方法について

地震・防災課

車両避難のリスク（液状化、交通渋滞等）について、啓発ポスターなどを作

成・掲示して、徒歩避難の徹底を図りたい。また、避難マップは避難場所だけを表示しても市外の客も来られるので、より啓発できる方法を考えていきたい。その為には事業所の皆さんと一緒に協議しながら、良いものを作っていけたらと考えている。

また、避難場所案内板について、現在、旧避難場所のもの（神田児童公園、臨港道路）を設置しているが、4月以降に新しい避難場所にリニューアルしたものを整備したい。加えて、新たな事業所もできたので、桐間地区の事業所で何か所か貸していただければ設置もしていきたいし、避難場所の位置や徒歩避難を啓発できるような体制づくりを来年度は進めていきたい。

#### ● 質疑・意見等

Q. 避難方法について、避難経路に選定されている公道を通るよりも、線路や民家を通り抜けた方が早く避難場所に着けるのではないか。

A. 二つの県道を渡るような形も経路に入れているが、地震の揺れで橋や山などが崩れるかわからない。また、そこを調査して絶対に安全ということは難しいので、複数のルートを考え、一つのルートが使えなくても別のルートを考えるように、日頃から訓練して頂くことが重要である。線路を横断する方が早いなら、それも選択の一つである。行政サイドとしてリスクの高い避難経路を選定ができないというだけである。

Q. 高速道路へ上がる階段の耐久性（液状化等）は大丈夫か。

A. 避難階段も、津波の為の避難階段ではなく、あくまで高速道路での事故や緊急時に高速道路から下へ降ろすための避難階段であって、津波用というわけではない。ただし、解釈の問題で国土交通省は津波避難階段として設置するのは難しいということもある為、一つの方法論と考えて頂ければと思う。耐久性は確認していないが、周辺の地形等に配慮された構造物と考えている。

Q. 車で吾桑方面に避難するなら、渋滞に巻き込まれるリスクがあるが、それを考えると逆に押岡方面（押岡公園）へ逃げた方が、渋滞に巻き込まれないのではないか。

A. 桐間から押岡に向かうとなると、押岡川沿いに避難することになる。県や国の方でも、津波が河川を遡上してくることを想定しているため、川から離れることを目的として吾桑方面に避難するよう設定している。

また、押岡川は3.11時も実際に水が遡上し、噴き出している。

吾桑方面は渋滞の問題もあるが、車両避難のリスクと徒歩避難を基本とする啓発を粘り強くしながら、車両で逃げなければならない人が渋滞に掛からないよ

うなルールを作っていきたい。

なお、吾桑方面への車両避難も含めて、今後、渋滞や信号機の有無を考えながら避難計画を一緒に考えていきたい。

Q. 西崎町付近の市道は、車の交通量が多いと思うが（1000人近くが）横断することができるのか。

A. ヤマダ電機のところからは、方法論として選択肢がかなりあると思う。

トラックかもめの北側を通るまでは、渋滞になること少ないと思われるが、ここから踏切を渡った後、すぐに曲がって避難場所へ向かうなど、いろいろな方法がある。

このルートが絶対ではないので、逆に南方面に向かって県道の陸橋を渡る方法もあるので、従業員の皆さんで歩いてどのくらい掛かるか検討頂けたらと思う。また、踏切については被災地で遮断機が下りたままになった事例がある。ただし、大地震が起こると自動車は緊急停止するため、自動車は通らないが遮断機が下りているという状況も考えられる。その場合、車両避難は問題もあるが、徒歩であれば乗り越えて渡ることも可能である。

Q. 西崎町付近（ピア前）の信号は、赤の点滅になったりしないか。

A. 停電によって信号自体が止まると考えられる。

Q. 信号が機能していない場合、避難車両が止まらない為、市道を横断できないのではないか。

A. 前述のように、車での避難は常にそういったリスク（渋滞）があることを啓発したい。

横断できない場合、周囲にプリンスホテルやロマーナ（アパート）などの高い建物に上がるという方法もあることを指導していただければと考える。

Q. 桐間地区の整備で土地が嵩上げされたことで、越水トンネルを越えて津波が来るのではないか。

A. 過去の地震津波（チリ地震、昭和南海地震）では、この辺りに民家がなかったことから詳細はわからないが、チリ地震では線路付近まで津波が来ている。過去の南海地震では、東川内の下辺りまで津波が来た記録もあるので、次の南海地震で津波がどこまでというのはわからないが、県が12月に浸水想定を公表しており、この周辺は10m位の津波が予想されている。ただし、30cmの津波到達までの時間が30分程度と想定されているので、避難できる時間は一定あるのではないかと思う。

#### 4. 避難シミュレーションおよび防潮林整備について

##### 地震・防災課

津波の防潮林対策について、桐間地区での整備協議をしており、1月の津波対策専門委員会で、シミュレーション（津波到達時間、避難者数等）を行い、防潮林を整備することで効果が見込まれる場合は、整備を検討していく結論になっている。したがって、今すぐ防潮林整備を行うのではなく、来年度桐間地区で津波からのシミュレーションを実施し、検証したうえで防潮林整備の協議を行う流れで進めていく。

市の防潮林対策の基本的な考え方は、桐間地区の車両が津波に流された場合、北側の市街地方向に漂流物となって流れ込み、火災等も考えられるので桐間地区内で車を食い止めていく対策である。現時点では避難対策の次ではないかという意見やどれだけ津波を止める効果があるのかといった慎重論もあることから検証結果等を受けて協議を再開したい。

#### 5. その他『今後の協議会について』

##### 地震・防災課

今回2回目ということで、今後、この協議会をどう進めていくか、行政だけで進めるものではないと考えており、事業所からの意見等も踏まえて一緒に協議していくことが重要と考える。できるだけお忙しくない時期を設定しながら、継続的に協議会を開催できれば非常に有効な会議になると思うので、正式に桐間地区事業所等津波避難対策協議会を発足したい。

Q. 会を開く際に、新しい情報を私たち事業所に発信して頂ければ会議の意義はあると思う。

A. 協議会を設置し、会議の呼びかけを市の方が行いながら、具体的な地域での活動を会議の中で意見等を聞きながら決めていきたいと思う。

多種多様な事業所があるので、同じ時間帯に同じ活動ができるかどうか、難しいところもあるが協力を頂きたい。

次回は5月6月にポスター、マップ等の作成や案内板設置、啓発といったことについて協議したい。

##### ●その他

Q. 防災無線個別受信機を事業所に配布しているというが、どのような手続きが必要か。

A. 事業所向けにハンディタイプの防災無線受信機を貸出している。

地震・防災課に申請いただければ、1台は無償でお貸しできる。  
なお、屋外にアンテナが必要な場合、事業所負担が15000円程必要となる。  
申請書などは須崎市のホームページからダウンロードできる。また、防災対策の最新情報を掲載しているので、インターネット環境がある事業所は閲覧してほしい。

#### 須崎消防団多ノ郷分団

サークル K から各避難場所まで消防団員が徒歩による避難時間を計測したものがあある。一番遠い避難場所の高速道路登り口まで17分程度、30cmの浸水まで20分～30分なので時間の猶予はある。

消防団としてネックになる600～700台の自動車について、車というのは自分の財産ですから、自分で車に乗って逃げるといのは、仕方がないことすし、その時に国道56号と陸橋先の道は交差していますので、渋滞が起きた場合、厳しい。各避難場所への徒歩避難時間を、次回の会議で示したい。

自分の命を守るだけならどの地区でも変わりはないと思う。地震後、ある程度パニックになるので、そういうことも含めて協議していくということが必要である。一番は被害を最小限に食い止めることができるかということ。